

『地理総合/歴史総合/公共』の「地理総合」

第1 高等学校教科担当教員の意見・評価

1 前 文

新課程に対応した試験科目として『地理総合/歴史総合/公共』が新たに実施された。「地理総合」部分（配点50点）は、第1問から第4問における16の設問で構成され、学習指導要領の大項目「A 地図や地理情報システムで捉える現代世界」、「B 国際理解と国際協力」、「C 持続可能な地域づくりと私たち」を踏まえた出題となった。なお、第1問と第2問は『地理総合、地理探究』と共通して出題された。

問題作成方針では、学習指導要領において育成を目指す資質・能力を踏まえ、地理に関わる事象を多面的・多角的に考察、構想する過程が重視されている。なお、評価に当たっては、報告書（本試験）21ページに記載の8つの観点により、総合的に検討を行った。

2 内 容・範 囲

第1問 穀物の生産や消費と自然環境・生活文化との関わり、地球的課題との結び付きに関して、場所や人間と自然環境との相互依存関係などに着目して、穀物の貿易や米を使った食文化、アフリカの穀物生産と水環境、穀物生産の時代変化とその背景などについて、多面的・多角的に考察する問題で構成されている。『地理総合、地理探究』との共通問題である。

問1 小麦、米、トウモロコシの輸出状況について、世界の生産量に対する輸出量の比率と、三つの輸出元地域における世界全体の輸出量に占める割合を示した表を基に、三大穀物の貿易の特徴を考察する良問。

問2 世界の四つの地点における、米を使った特徴的な料理について、各地域の地理的条件に関する知識を基に、米食文化の多様性を考察する問題。

問3 アフリカの二か国における穀物別生産割合を示した主題図を読み取り、栽培される作物や栽培方法の違いを、両国の地理的条件や水環境の視点から考察する問題。

問4 世界における三大穀物と大豆の収穫面積と1ha当たりの収穫量の変化を示したグラフを基に、それぞれの作物の栽培が、様々な地球的課題と結び付きながら変化してきたことについて、地球環境の変化や世界の食料需要に関する知識を踏まえて考察する問題。

第2問 景観写真や地形図、主題図やグラフなど多様な資料を読み取り、愛媛県今治市を対象として、空間的相互依存作用や地域などに着目して、地理的特徴を考察する地域調査の問題。調査対象地域の交通、産業の特徴や変容の要因を多面的・多角的に考察する問題によって構成されている。『地理総合、地理探究』との共通問題である。

問1 今治市内の地理院地図と景観写真を基に、写真が撮影された地点を判断する問題。

問2 四国外から四国への訪問者数とその推移が示された表を基に、交通インフラの整備が地域間の移動手段に与える影響を架橋年次に着目して考察する良問。

問3 愛媛県内の自治体別1km²当たり事業所数、第二次産業就業者割合、1人当たり農業産出額を示した階級区分図を基に、愛媛県内における今治市の産業構造の特徴を考察する良問。

問4 国内のタオル生産量や輸入量に関する資料から、日本全体のタオル産業の動向を把握し、その中で今治におけるタオル生産の発展の背景や推移について考察する問題。

第3問 日本の自然環境と防災に関して、地図や写真から情報を読み取り、地理的諸事象に関す

る知識を基に、人間と自然環境との相互依存関係などに着目して、河川がつくる地形の特徴と災害リスク、人工的な河川・水路と水域がつくられた地理的な背景、大地震に伴う震度や火災の延焼状況、防災施設の機能について多面的・多角的に考察する問題で構成されている。

問1 地形図や陰影起伏図から河川下流域の地形や土地利用を読み取り、河川がつくる小地形に関する知識を基に、地形の特徴と災害リスクについて考察する問題。

問2 三つの地域における人工的な河川などの水域を示した地図からその特徴を読み取り、地形に関する知識を基に、自然環境と人間生活の関わりを考察する良問。

問3 関東大震災による震度分布と火災の延焼状況を示した地図、陰影起伏図を読み取り、気象についての知識と関連付けながら、関東大震災の被災状況などを考察する問題。

問4 防災に関する構造物や施設の写真から、自然環境と防災に関する知識を基に、様々な災害に対する社会の脆弱性を小さくするための取組みを考察する問題。

第4問 世界の生活文化の多様性に関して、図や写真から情報を適切に読み取り、人間と自然環境との相互依存関係や空間的相互依存作用などに着目して、生活文化と自然・社会環境の関わりや、その変容について多面的・多角的に考察する問題で構成されている。

問1 自然環境に応じた農業と食文化について、地図上の4地点における農業の地域的特色や食文化の多様性を考察する問題。

問2 写真に示された世界の無形文化遺産について、それぞれの無形文化遺産の継承に影響を与えている社会的背景と関連付けて考察する問題。

問3 世界の森林減少地域を示した図を基に、自然環境に人間活動が与える影響とその背景を考察する問題。

問4 四つの国における留学生の出身地域を示した図を基に、他地域との地理的距離や歴史的背景を踏まえて、各国と諸地域とのつながりを考察する良問。

3 分量・程度

第1問 基本的な知識やそれを基にした思考力を問う標準的な難易度の設問で構成されている。

問1は、「地理総合」の学習を通じて身に付けるべき知識を基に考察する問題として、難易度も適切である。資料や文章量ともに適切である。

第2問 地図の読図技能や読み取った内容を基にした思考力を問う標準的な難易度と難易度が高い設問で構成されている。問2は、表から読み取れる訪問者の推移を基に、四国各県の位置や架橋の年次など多様な視点から考察する必要があり難易度が高い。資料や文章量は適切である。

第3問 基本的な知識やそれを基にした思考力を問う標準的な難易度の設問で構成されている。

問4は、主に写真と用語から判断するため、自然災害や防災についての基本的な知識の有無によって差が表れた。資料や文章量ともに適切である。

第4問 基本的な知識やそれを基にした思考力を問う標準的な難易度の設問で構成されている。

問2は、受験者にとって見慣れない題材や資料であるが、難易度は標準的である。資料や文章量ともに適切である。

4 表現・形式

第1問 多様な資料が用いられており、身に付けた概念的な知識や地理的な見方・考え方を働かせて多面的に考察する出題形式で適切である。問4は、それぞれの穀物の収穫面積と1ha当たり収量の経年変化からみえる特徴を考察することができる図であり、学習素材としての価値も高い。

第2問 地域調査として、生徒が景観写真や地図などの資料を基に、地域を多面的な視点から考察する場面が設定されている。問1は、選択肢となる景観写真が似通っており、判別が困難なものがみられた。問4は、選択肢の判断根拠が資料や会話文の中で見だしにくいものがあり、選択肢の表現に工夫が必要である。

第3問 自然災害と防災に関して、地形図や陰影起伏図、主題図、写真など地理学習で用いられる資料から考察させる出題形式であり、適切である。問2は、人工的な河川などの水域を示した地図により、河川・水路の広がりや水域の形状、河川・水路と水域との関係などに着目させ、地理的な見方・考え方を働かせて考察できる工夫がなされている。

第4問 多様な資料が用いられており、身に付けた概念的な知識や地理的な見方・考え方を働かせて多面的に考察する出題形式で適切である。問2は、写真が小さく、表現されている内容を把握しにくいいため、受験者が戸惑わないような配慮が必要である。

5 ま と め（総括的な評価）

問題作成の基本的な考え方及び地理の問題作成方針に沿って、学習指導要領において育成することを旨とする資質・能力を測るための良問で構成されている。特に、高等学校教育で身に付けた、大学教育の基礎力となる知識・技能や思考力、判断力、表現力等を発揮して解くための文章や統計資料、主題図といった様々な資料の読解力が試される試験となっている。「地理総合」で扱う内容が万遍なく出題され、標準的な問いから挑戦的な問いまでバランスよく配置されている。中学校までの学習を基にしながら幅広い学習が求められる問題構成であった。

第2問で場面設定がなされ、地域調査を実施するに当たって着目すべき地理的事象や、分析する視点など、地域調査の進め方が各設問に意識された構成となっている。また、第1問では場面設定はなされていないものの、設問間で学習内容のつながりを感じることができる出題となっており、実際の授業場面を想定した工夫がなされている。第1問の問4、第4問の問4のように、地理的事象に関する概念の理解を問い、地理的な見方・考え方を働かせる問題や、第1問の問1、第3問の問4のように、最低限身に付けるべき知識を問う問題など、必修科目である「地理総合」で身に付けるべき資質・能力の水準についてのメッセージ性を有している。

全体的には適正な難易度であり、受験者にとって初見となる資料が付された問題もみられたが、与えられた資料から情報を読み取り、解答することが可能であった。しかし、第1問の問3、第4問の問1など、中学校の地理的分野及び「地理総合」の学習では必ずしも取り扱わないであろう個別的知識を必要とする設問がみられた。「地理総合」では地理的な見方・考え方をしっかりと働かせて正答を導くことができる問題が出題されるよう、求められる知識の水準については留意が必要である。また、第4問の問2のように、写真が小さいために内容を読み取りにくい設問や、第3問の問3のように、選択肢となる文の表現の意図する内容がわかりにくいものがあった。引き続き、高等学校教育の学習実態に即した程度や表現・形式に留意した出題といった改善をお願いしたい。

全体を通して、高等学校での学習内容を基にした基本的な知識や思考力を問う問題、探究的学習の例となる問題が随所にみられ、高等学校における授業改善の指針となる試験である。